

会議の結果

件 名	平成 28 年度第 1 回社会教育委員会議定例会
日 時	平成 28 年 5 月 17 日（火曜日） 午前 9 時 30 分～正午
場 所	田辺市民総合センター 2 階交流ホール
出 席 者	○社会教育委員 加藤委員、三宅委員、近藤委員、西川委員、高垣委員、松場委員、久保委員、庄司委員、 榎本委員、九鬼委員 計 10 名 （欠席）谷本委員、中本委員、尾崎委員 ○職員 中村教育長、弓場教育次長 （生涯学習課）杉若課長、山本生涯学習推進係長、坂本公民館係長、廣畑中央公民館主事、 大倉中央公民館主事、竹邊生涯学習指導員、中田社会人権教育指導員、岡本主査 計 8 名

1. 教育長あいさつ

今日はお忙しいところ、お集まりいただきありがとうございます。

本日は平成 28 年度第 1 回社会教育委員会議定例会です。2 年任期の折り返し点であります。いつも社会教育委員の方々の活動や、提出していただく資料を拝見し、いつも感心しております。



ご承知のとおり、田辺市は合併してから 11 年目に入りました。合併協議会を中心に 10 年間の計画を立て、9 割は達成したと言われてはいますが、次の 10 年でどう田辺市を作っていくかが課題になります。特に 2060 年問題の人口問題が言われる中で田辺市がどのように生き残っていくか、今年からの体制にかかっていると考えています。国では地方創生が叫ばれていますが、合併した田辺市がその利を受けて、どのように展開していくかを考えると同時に、昭和の合併の中心となった拠点が地方であると考え節が多すぎる。一極集中といわれるが、地方の地方もあり、そんな中で、我々の田辺市が紀南地方でどのように生き残っていくかは、皆で考えていく必要がある大きな問題であります。

学校で言いますと、今年の新入学生が 618 人であり、少子化が進んでいます。100 人を超える入学生の学校はありません。一番多い学校でも 35 名学級でぎりぎり 3 クラスです。3 年生になると 38 人学級になりますから 2 クラスになります。新入児 0 人の学校や 1 人クラスなど子供が自分の能力を全開するために学校に通う訳ですが、単式学級ではなく複式の学校、複々式の学校もあり、校長先生と担任 2 人など教員 3 人の学校もあります。いろいろな課題を学校も抱えていますが、子供を取り巻く保護者や地域社会が高齢化のために、従来、地域として成立していた地域が、件数が減少して地域の役割を賄っていくことが難しい地域もあります。地方の地方はそういう状況になってきており、実際、有効な施策を打っていません。地域に入っていて、地域の皆さんとも懇談をしながら活動をされている社会教育委員の皆さんのご努力には頭が下がります。

田辺市は田舎に住んでいても田辺市で良かったと言える田辺市にしていきたいと思いますので、どうぞ今年度もよろしくお願いします。

2. 議長、副議長の選出

議長には久保正博委員、副議長には高垣幸代委員が選出された。

3. 議長挨拶

久保議長から挨拶を行った。

今まで、高垣副議長とさせていただいていますが、皆さんの力のおかげで形ができて、筋が通って、前に進んでこられたと思います。議長、副議長の力ではなく、一緒になって、少数意見が消されたり、多数決で話が進むのではなく、皆の意見が反映されるような会議にしたいと思いますので、1 年間ご協力をお願いします。



4. 説明事項

これより久保議長が進行を行う。時間設定等の説明を行った後、説明事項に入る。

- ・ (1)教育委員会機構図及び教育委員会職員名簿について、杉若生涯学習課長から説明を行った。
- ・ (2)平成 28 年 3 月議会の①教育委員会委員の任命につき同意を求めることについて、弓場教育次長から説明を行った。
- ・ (2)平成 28 年 3 月議会の②一般質問について、③平成 27 年度 3 月補正予算について、④平成 28 年度当初予算について、岡本主査から説明を行った。



5. 報告事項

説明なし。

【質疑応答】

[庄司委員]

平成 28 年度当初予算の教育事務所費ですが、各教育事務所の予算を見ると、中辺路教育事務所が少ないのは理由がありますか。



[岡本主査]

事業費は各教育事務所で計上してもらっていますが、行政局内の経費で計上されている部分もありますし、車両の維持費用であったり、コピー機などの費用などが計上されている教育事務所もありますので、事業の多少ではありません。また、臨時職員の人数や館長が嘱託職員の教育事務所もありますので、その部分で差があります。

[近藤委員]

説明事項、報告事項以外ですが、4 月 2 日の新聞の中に LGBT(※) の対応について、文部科学省が小中学校の教職員向けの手引きを出して、それを教育委員会の担当者向けの研修などに使い、現場に周知するよう求める考えであるとありました。5 月 13 日には LGBT の子供にとって学校が辛いので、各教育委員会がリーダーシップを取って教員研修の機会を設け、教師が教室で啓発に取り組んでいくようにすべきだということも掲載されていますが、田辺市ではどのように取り組んでいくのか、お聞かせいただきたい。LBGT の人は 12～3 人に 1 人いると言われていますが、田舎では偏見もあって都会のようにはいかない部分もある。LGBT、最近では LGBTI とも言われますが、そういった研修の機会などを増やしていくなど具体的なものは無いのでしょうか。偏見が強いので、学校や教職員でも理解を進めていただきたいと思います。



※LGBT…レズビアン (L) (女性同性愛者)、ゲイ (G) (男性同性愛者)、バイセクシュアル (B) (両性愛者)、トランスジェンダー (T) (心と体の性が一致しない人) の頭文字に由来し、性的少数者を意味する。インターセックス (I) (生物学的性) を含み、LGBTI と言われる場合もある。

[中村教育長]

そのことについて、田辺市全体で教職員に話をしたという事実はまだ無いです。

[近藤委員]

制服問題などの主張とは違う部分がある。身体と自分の考える性が一致しない。その辺の理解が受け入れられず、個人の勝手な理由ととられる。個人的な意見とは違う理由があるので、理解を進めていただきたい。

[竹邊生涯学習指導員]

田辺市全体での研修会は教育長が申したように現時点では無いが、学校によって子供自身も気付いていない場合もあるが、教職員が感じ取って、学校の中で研修をしているところもあります。いろいろな情報も入ってきているので、それぞれの学校では取組もしながら、研修もしながらやっています。

[松場委員]

関連して、まちづくり学びあい講座などで人権か子育てなどの講座などで企画していただければ良いのではと思いました。学校で考えると、規模もあるので全校に必要なかどうかは分からないが、問題があった場合に対応できる体制をとってほしいと感じました。LGBT のトランスジェンダーについては、確定していないところもあって、心の性別などは無いのではという意見もありまして、もっとグラデーションな問題であって、何が男性的か、女性的か、という話もありますし、体まで弄らないと生きていけないのか、性別が変更できないのかといったこと自体が問題視されている意見もあります。確定していない問題に対して講座を持つことは難しいとは思いますが、対応が可能になるような体制を整えていただきたいと思います。



それから、まちづくり学びあい講座の対象が市内在住の 10 人以上の団体やグループとなっていますが、実施人数を維持することが難しく、10 人以上の構成メンバーがハードルになることがあるので、構成メンバーではなく、話を聞きにきてくださる方が 10 人以上であれば OK なのですか。

[山本係長]

まちづくり学びあい講座は、元々、県の出前講座に倣って、行政の施策を担当の課長が説明に行くという発想で行っています。今のご意見は、現状に合うように拡充することになるかと思しますので、構成メンバーなどは町内会や自治会等を想定してやっていたので、速やかにどういった方策が良いのか、前向きに検討したいと思います。

[近藤委員]

LGBT については、教科書に LGBT をといったネットワークもできている中で、和歌山県は遅れているところもあり、先生に風紀を乱すなといった感じで拒否されて保健室に通ったり、家に閉じこもってしまったりということもあるみたいなので、せめて先生方には大変なのは分かるが、理解してほしいと思います。

[久保議長]

LGBT は人権の観点からも相談件数が徐々に増えてきている。教育の観点からも必要になってくると思いますし、10 年先のこともあるので、行政内で投げかけていただけたらと思います。こういうところは受取側がどう受け取るかで、当事者の精神的なものが緩和されてくるので、よろしくお願いします。

6. 協議

①田辺市社会教育委員会議の今年度の予定について

今年度の予定について、岡本主査から説明を行った。

②グループ協議

これまでの取組の経過や趣旨について、岡本主査から説明を行った後に、グループ協議を行い、その内容の報告を行った。

【グループ協議の内容報告】

グループ③ 地域づくりと人づくり <西川委員、近藤委員、松場委員>

[西川委員]

グループ③でやるべきことは、8 年続けてきた人材育成講座の新しい取組を行うことです。新しい人材育成事業の取組については、2 つの方法で組立てていこうということになりました。1 つ目はこれまでの田辺市の取組の地域コーディネーター養成講座、まちづくり市民カレッジ、縁パワーメント学の受講生のお一人お一人がどのような活躍をされているのかを総括する必要があると思います。受講生が受講後にどのように変わったのか、どのような活躍の場があるのか、はいつも議論されるところです。田辺市は社会教育委員や公民館長になっている方もいますので、そういった部分の総括をしましょうということになりました。もう一つが、現地視察も含めて、I・U ターンでこられた方がどういう想いを持ってこられたのか、また地域に残られた方はなぜ残られたのか、もう少し聞いてこれからの必要な人材育成をどのようにしていくのか、考えていきたいと思っています。最終結論はどのような形になるのか、プロセス全体を含めてまとめていきたいと考えています。



グループ② 現代的課題と人づくり <久保議長、庄司委員、榎本委員>

[久保議長]

公民館の事務局も替わられたので、新しいメンバーで始めるので意識統一をしながら、話し合いを進めていきました。第一弾は主事会へ参加して意見交換をする時間を取ってもらうことになり、6月14日の主事会にお邪魔することになりました。地域の実情を知るための第一歩として主事会を考えています。また、今後は地域に寄り添っておられる支援員と意見交換をできる場があれば第2弾として考えていますが、まずは主事会の中で主事の日常の活動や、活動する上での苦しみ、障害など、または、どういう心を持って事業に取り組んでいるかをお聞きしたいと考えています。今回は2年目の主事が発表する場があるということなので、そういう話を聞きながら、社会教育委員が行って話を聞かせてほしいというスタンスではなく、いつもの主事会の中で意見交換をさせていただくという形でいきたい。次の議論については、主事会の意見交換の中でも、次のものいろいろ出てくると思っていますので、手探り状態で修正しながら、皆で形にしていきたいと考えています。



グループ① 青少年、子育てと人づくり

<高垣副議長、加藤委員、三宅委員、九鬼委員>

[高垣副議長]

貧困問題についての資料をもらい、色々な話をしました。本当の貧困とは何か、国や地方で支援が増えているのに貧困が進んでいるのはどうしてなのかなど、職員と委員の間で情報交換を行いました。その中から、地域で親と子が一緒に参加できる事業を考えるといった提案もあったのですが、これまで惰性でやっている事業の見直しが必要ではないかといった意見も出ました。挨拶運動であったり、防災訓練であったり、本当に頑張ってやっている人もいるが、やったことだけが結果として残っていないか。あいさつ運動も市からの放送のみで、町内会や公民館からの呼びかけは無い。本当に実のある活動にしていく必要があるのではと思いました。やっぱり、地域の人が動かなければならないと思います。いろいろなことを企画しても来ない人、参加しない人が問題なので、普段の日常生活の中で子供に声かけをして、顔をつないで、出会えば挨拶をするといった全体的に底上げする活動が必要なのではと感じています。悲観的な意見も多いのですが、町全体が明るい、やさしい町になるようにといった話し合いになりました。



③その他

松場委員から図書館協議会の報告を行った。

[松場委員]

図書館では、開館5周年記念事業が考えられています。また、もうすぐ来館者数も100万人を達成するそうで、100万人を達成された方には認定証が渡され、横断幕などをかけたりすることなども考えられているようです。記念事業として東陽中学校出身の筑波大学名誉教授の村上浩一先生を招いて、連続講座が10月30日、12月4日、3月5日の3回予定されています。田辺出身の絵本作家の方の講演も美術館と連携してありますので、ご参加をお願いします。

7. その他

事務連絡（日程等）を岡本主査から行った。

8. 閉会

高垣副議長から閉会の挨拶を行った。

今日は、小学校の入学生が100人を超えた学校が無いというショッキングな報告を受け、本当に将来を考えないといけないと実感した日でした。グループ協議については、難しくなってきましたが、次回7月の定例会も頑張りたいと思います。お疲れ様でした。

